

斑点米カメムシ類多発に注意!



稲作



秋田地区営農センター 係長 嗟峨 大輔

カメムシの発生量は前年よりも多く、発生時期もやや早くなっております。
特に発生量が多い山間部や耕作放棄地と隣接している圃場では、適期防除の徹底をお願いいたします。

「あきたこまち」出穂期からのカメムシ防除適期と使用薬剤

カメムシ防除適期は出穂期(圃場全体の40～50%出穂)後1週間から10日後の散布が理想です。

カメムシ1回目防除

…スタークル剤
※散布後1週間以内に畦畔の草刈りを実施しましょう。

カメムシ2回目防除

…キラップ剤
※1回目散布後2週間後が散布の目安となります。

薬剤名	規格	希釈倍数	散布量・散布液量	価格(税込)
スタークル粉剤DL	3kg	—	3kg/10a	1,529円
スタークル液剤10	500ml	1,000倍	150ℓ/10a	2,794円
キラップ粉剤DL	3kg	—	3kg/10a	1,419円
キラップフロアブル	500ml	2,000倍	150ℓ/10a	5,016円

今後の管理

- ◆ カメムシは畦畔や水田内の雑草に寄生し、出穂後に籾を吸引して被害を与えます。特に「あきたこまち」は籾が割れやすい品種なので、**必ず2回の散布をお願いします。**
1回目の防除後は、**1週間以内に畦畔の草刈りを実施してください。**
- ◆ 出穂後20日間は玄米形成に最も重要な時期です。2湛2落(間断かん水)を基本としながら、常に飽水状態の維持を念頭に、収穫時まで根の活力維持に努めましょう。
出穂期以降に高温が続く場合は、胴割粒・乳心白粒による品質低下が懸念されます。収穫期まで気を抜かず、天候に即した水管理を行って品質向上に努めましょう。
- ◆ 秋田中央地域は海洋性の気候により、日中と夜間の気温差が小さい地域です。高温時は各地区の給水規則を守って夜間かん水を徹底し、日中と夜間の温度較差をつけて登熟を高めましょう。
- ◆ 高温、強風時(フェーン現象)には、稲体の消耗が大きくなるので、事前に湛水して稲体を保護しましょう。
- ◆ 完全落水は出穂から31日以降を目安とします。早期落水は登熟を妨げますので、気を付けましょう。

